

### 中国古典に由来する日中熟語や諺の相違点について(4)

Ling, Zhi Wei / 凌, 志偉

---

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

99

(開始ページ / Start Page)

241

(終了ページ / End Page)

274

(発行年 / Year)

1997-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00004857>

## 中国古典に由来する日中熟語や 諺の相違点について (4)

凌 志 偉

- 大姦(たいかん)は忠に似たり  
大姦似忠，大詐似信。

宋史・呂誨

中：大奸似忠。

- 大義(たいぎ)親(しん)を滅(めつ)す  
石碣使其宰犖羊肩蒞殺石厚於陳。君子曰，石碣，純臣也。惡州吁而厚與焉。大義滅親。其是之謂乎。

左傳・隱公四年

中：大義滅親。

- 大巧(たいこう)は拙(せつ)なるが如し  
大直若屈，大巧若拙，大辯若訥。

老子・第四十五章

中：大巧若拙。

- 大行(たいこう)は細謹(さいきん)を顧みず  
大行不顧細謹，大禮不辭小讓。

史記・項羽本紀

中：大行不顧細謹。

- 泰山(たいざん)は土壤(どじょう)を讓らず

海不辭水，故能成其大。山不辭土石，故能成其高。

管子・形勢

是以泰山不讓土壤，故能成其大。河海不擇細流，故能就其深。

李斯・諫逐客令

中：泰山不让土壤，故能成其大。

・泰山を挟(わきばさ)みて北海(ほっかい)を超ゆ

挾太山以超北海，語人曰，我不能，是誠不能也。

孟子・梁惠王上

中：挟泰山以超北海。挟山超海。

・大人(たいじん)は赤子(せきし)の心を失わず

大人者，不失其赤子之心者也

孟子・離婁下

中：大人者不失赤子之心。

・大声(たいせい)里耳(りじ)に入らず

大聲不入於里耳，折楊、皇荂，則嗑然而笑。

莊子・天地

中：大声不入于里耳。阳春白雪和者寡。曲高和寡。

・大知(だいち)愚(ぐ)の如し

大勇若怯，大智如愚。至貴無軒冕而榮，至仁不導引而壽。

蘇軾・賀歐陽少師致仕啓

中：大智若愚。大智如愚。

・大道(だいどう)廢(すた)れて仁義(じんぎ)あり

大道廢，有仁義。智慧出，有大偽。六親不和，有孝慈。國家昏亂，有忠臣。

老子・十八章

中：大道废，有仁义。

- 大徳(たいとく)は小怨(しょうえん)を滅ぼす  
王曰、大徳滅小怨、道也。

左傳・定公五年

中：大徳滅小怨。

- 大弁(たいべん)は訥(とつ)なるが如し  
大直若訥、大辯若訥、大巧若拙、其用不屈。

老子・四十五章

中：大辯若訥。

- 大勇は怯(きょう)なるが如し  
大勇若怯、大智如愚。

蘇軾・賀歐陽少師致仕啓

中：大勇若怯。

- 斃(たお)れて後已む  
不知年數之不足、俛焉日有孳孳、斃而後已。

禮記・表記

中：死而后已。

- 高きに登る  
遙知兄弟登高處、遍插茱萸少一人。

王維・九月九日憶山東兄弟詩

中：重九登高。

- 高きに登るは必ず低きよりす  
若升高必自下、若陟遐必自邇。

書經・太甲下

中：(事物の進行には一定の順序があり、手近な所から始めねばならぬという意味から)(办事要)按部就班。

- 宝(たから)さかって入る時はさかって出る

是故言悖而出者，亦悖而入，貨悖而入者，亦悖而出。

禮記・大學

中：不义之財，理无久享。悖入悖出。横財不富。

◦薪(たきぎ)を抱(いだ)きて火を救う

以地事秦，譬猶抱薪而救火也，薪不盡，火不滅。

戰國策・魏策三

中：抱薪救火。

◦諾(だく)を宿(しゆく)すること無し

子曰，片言可以折獄者，其由也與。子路無宿諾。

論語・顔淵

中：不拖延諾言。

◦他山(たざん)の石

它山之石，可以爲錯。

它山之石，可以攻玉。

詩經・小雅・鶴鳴

中：(参考にすべき，他人のよくない言行や他国の実例または他人のつまらぬ言行も自分の人格を育てる助けとなりうることのたとえという意味から)从他人或其他国家的不良言行中吸取教训。

注：中国語の“他山之石，可以攻玉”は肯定的な意味(“褒義”)と否定的な意味(“貶義”)とあるが，“褒義”すなわちお手本という意味で使われることが圧倒的に多い。それに対して日本語の“他山の石”は“貶義”しかない。

◦他山(たざん)の石以て玉(たま)を攻(おさ)むべし

=他山の石に同じ

◦多多(たた)ますます弁ず

上問曰，如我能將幾何。信曰，陛下不過能將十萬。上曰，於君何如。曰，臣多多而益善耳。

史記・淮陰侯列傳

上曰、如公何如。曰、如臣多多益辦耳。

漢書・韓信傳

中：多多益善。

◦ 達人(たつじん)は大観す

達人大観、乃見其符。

鶡冠子・世兵

小智自私兮、賤彼貴我。達人大観兮、物無不可。

賈誼・鵬鳥賦

中：达人大观。(喻高手能不拘小节，纵观全局。)

◦ 掌(たなごころ)を反(かえ)す

必若所欲爲、危於累卵、難於上天、變所欲爲、易於反掌、安於泰山。

漢書・枚乘傳

中：1.(物事がきわめてたやすくできるという意味から)易如反掌。

2.(急に態度が変わるとの意味から)翻臉不认人。

◦ 掌(たなごころ)を指(さ)す

子曰、不知也。知其說者之於天下也、其如示諸斯乎。指其掌。

論語・八佾

中：了如指掌。

◦ 楽しみ極(きわ)まりして哀情多し

歡樂極兮哀情多、少壯幾時兮奈老何。

漢武帝・秋風辭

中：欢乐极兮哀情多。

◦ 楽しみ尽きて哀しみ来(きた)る

自南宮遷於西内、時移事去、樂盡悲來。

陳鴻・長恨歌傳

中：乐尽悲来。

- 玉(たま)となって碎(くだ)くとも瓦(かわら)となって全(まった)からじ  
大丈夫寧可玉碎，不能瓦全。

北齊書・元景安傳

中：宁为玉碎，不为瓦全。

- 玉(たま)に瑕(きず)  
以不純言之，玉有瑕而珠有毀。

論衡・累害篇

中：美中不足。

- 玉(たま)の杯(さかずき)底(そこ)無きが如し  
且夫玉卮無當，雖寶非用。

左思・三都賦序

中：虛有其表。华而不实。银样鐵枪头。

- 玉(たま)琢(みが)かざれば器(うつわ)を成さず  
玉不琢，不成器。人不學，不知道。

禮記・學記

中：玉不琢，不成器。

- 玉(たま)を懷(いだ)いて罪あり  
初，虞叔有玉，虞公求旃。弗獻。旣而悔之，曰，周諺有之，匹夫無罪，  
懷璧其罪。

左傳・桓公十年

中：懷璧其罪。

- 環(たまき)の端(はし)無きが如し  
奇生環相生，如環之無端。

史記・田單傳

中：连绵不断。源源不絕。

- たまごを見て時夜(じや)を求む  
且女亦大早計，見卵而求時夜，見彈而求鵝炙。  
莊子・齊物論

中：打如意算盤，見彈求鵝。

- 民(たみ)の口を防ぐは水を防ぐよりも甚だし  
防民之口，甚於防川，川壅而潰，傷人必多，民亦如此。  
國語・周語上

防民之口，甚於防水。

史記・周本紀

中：防民之口，甚于防川。

- 民(たみ)は之(これ)に由(よ)らしむべし。之を知らしむべからず  
子曰，民可使由之，不可使知之。  
論語・泰伯

中：民可使由之，不可使知之。

- 袂(たもと)を連(つら)ねる  
市北肩輿每聯袂，郭南抱甕亦隱几。  
杜甫・暮秋遣興呈蘇渙侍御

中：联袂。携手同行。

- 誰(たれ)か烏(からす)の雌雄(しゆう)を知らん  
具曰予聖，誰知烏之雌雄。  
詩經・小雅・正月

中：(人の心や善悪・優劣の判定というものはしにくいものだという意味から)喻人心叵測，善悪、优劣难辨。

- 胆(たん)斗(と)の如し  
維妻子皆伏誅。裴松之注引“世語”，維死時見剖，膽如斗大。  
三國志・蜀志・姜維傳

中：胆大如斗。

- 胆(たん)は大(だい)ならんことを欲し心は小ならんことを欲す  
膽欲大而心欲小，智欲圓而行欲方。

舊唐書・孫思邈傳

中：胆大心細。

- 胆(たん)を奪う  
武夫喪魂，義夫奪膽。

梁武帝・移京邑檄

中：喪胆銷魂。魂飛魄散。

- 短(たん)を捨(す)て長(ちょう)を取る  
若能修六藝之術，而觀此九家之言，舍短取長，則可以通萬方之略矣。

漢書・藝文志

中：舍短取長。

- 断じて行(おこな)えば鬼神も之(これ)を避(さ)く  
故顧小而忘大，後必有害。狐疑猶豫，後必有悔。断而敢行，鬼神避之，後有成功。

史記・李斯傳

中：断而敢行，鬼神避之。

- 男女七歳(しちさい)にして席(せき)を同じうせず  
七年男女，不同席，不共食。

禮記・内則

中：七年男女，不同席。

- 儋石(たんせき)の儲け  
家産不過十金，乏無儋石之儲，晏如也。

漢書・揚雄傳上

中：阮囊羞澀，儋石之儲。

◦ 血で血を洗う

我國人皆欲殺汝，唯我不然。汝國已殺董突等，吾又殺汝，猶以血洗血，汗益甚爾。

舊唐書・源休傳

中：血償要用血償還。以血洗血。

◦ 血を敵(すす)る

盟者殺牲敵血誓於神也。

禮記疏・曲禮下

中：敵血。

◦ 地に落ちる

文武之道，未墜於地。

論語・子張

中：声誉扫地。

◦ 地に塗(まみ)れる

→一敗地に塗れる

◦ 地を易(か)うれば皆然(しか)り

曾子、子思同道。曾子，師也，父兄也。子思，臣也，微也，曾子、子思易地則皆然。

孟子・離婁章下

中：易地皆然。

◦ 地を掃(はら)う

秦滅六國，上古遺烈，掃地盡矣。

漢書・魏豹傳贊

中：完全喪失。～扫地。

◦ 治(ち)に居て乱(らん)を忘れず

是故君子安而不忘危。存而不忘亡。治而不忘亂。是以身安，而國家可保也。

易經・繫辭下

中：治不忘亂。

- 知恵(ちえ)出(い)でて大偽(たいぎ)あり  
大道廢，有仁義。慧智出，有大偽。

老子・一八章

中：慧智出，有大偽。(喻智慧出現了，才有严重的诈偽。)

- 力山を抜き氣は世を蓋(おお)う  
力拔山兮氣蓋世，時不利兮騅不逝  
騅不逝兮可奈何，虞兮虞兮奈若何。

史記・項羽本紀

中：力拔山兮氣蓋世。

- 竹帛(ちくはく)に垂(た)る  
但願明公威德加於四海，禹得效其尺寸，垂功名於竹帛耳。

後漢書・鄧禹傳

中：名垂青史。

- 知者の一失(いっしつ)愚者(ぐしゃ)の一得  
廣武君曰，臣聞智者千慮，必有一失。愚者千慮，必有一得。

史記・淮陰侯傳

中：智者千慮，必有一失。愚者千慮，必有一得。

- 知者は惑(まど)わず，勇者は懼(おそ)れず。  
知者不惑，仁者不憂，勇者不懼。

論語・子罕

中：知者不惑，勇者不惧。

- 知者は水を楽しむ

知者樂水，仁者樂山。

論語・雍也

中：知者乐水，仁者乐山。

◦ 知者も千慮(せんりょ)に一失(いっしつ)あり

廣武君曰，臣聞智者千慮，必有一失。

史記・淮陰侯傳

中：智者千慮，必有一失。

◦ 痴人(ちじん)の前に夢を説く

來書雲，子貢之明達，性與天道，猶不與聞，熹竊謂，此正癡人前說夢之過也。

朱熹・答李伯諫書

中：痴人说梦。

◦ 痴人(ちじん)夢を説(と)く

始東坡詩雲，我笑陶淵明，種秫二頃半，婦言既不用，還有責子歎。蘇公肯亦效癡人說夢邪。

宋・無名氏・愛日齋叢鈔・卷二

中：痴人说梦。

◦ 父(ちち)父たれば子も子たり

君君，臣臣，父父，子子。

論語・顔淵

中：父亲要像父亲，儿子要像儿子。

◦ 父の恩は山より高し

父恩者高山，須彌山尙下。

母德者深海，滄溟海還淺。

童子教

中：父恩高于山。

- 池塘(ちとう)春草(しゅんそう)の夢  
未覺池塘春草夢，階前梧葉已秋聲。

朱熹・偶成

中：池塘春草夢。

- 地の利は人の和(わ)に如(し)かず  
天時不如地利，地利不如人和。

孟子・公孫丑下

中：地利不如人和。

- 柱(ちゅう)に膠(にかわ)して瑟(しつ)を鼓(こ)す  
王以名使括，若膠柱而鼓瑟耳。

史記・閻相如傳

中：膠柱鼓瑟。墨守成規。

- 中原に鹿(しか)を逐(お)う  
秦失其鹿，天下共逐之。

史記・淮陰侯傳

中原初逐鹿，投筆事戎軒。

魏徵・述懷

中：中原逐鹿。逐鹿中原。

- 忠言(ちゅうげん)耳に逆(さか)らう  
且忠言逆耳利於行，良藥苦口利於病，願沛公聽樊噲言。

史記・留侯世家

中：忠言逆言。

- 忠臣(ちゅうしん)は二君(にくん)に事(つか)えず  
忠臣不事二君，貞女不更二夫。

史記・田單列傳

中：忠臣不事二君。

- 忠臣(ちゅうしん)を孝子(こうし)の門に求む  
求忠臣必於孝子之門。

後漢書・韋彪傳

中：求忠臣必于孝子之門。

- 晝夜(ちゅうや)を舍(お)かず  
子在川上，曰，逝者如斯夫。不舍晝夜。

論語・子罕

中：不舍晝夜。

- 中流に船を失えば一壺(いっこ)も千金  
中河失船，一壺千金。

鵲冠子・學問

中：中流一壺。中河失舟，一壺千金。

- 中流の砥柱(しちゅう)  
古冶子曰，吾嘗從君濟於河，鼃銜左驂以入砥柱之中流。

晏子春秋・諫下二四

中：中流砥柱。

- 緒(ちょ)に就(つ)く  
→ 緒(しょ)に就(つ)く

- 朝菌(ちょうきん)は晦朔(かいさく)を知らず  
朝菌不知晦朔，蟋蟀不知春秋。

莊子・逍遙遊

中：朝菌不知晦朔。朝生暮死。

- 長袖(ちょうしゅう)善(よ)く舞い多錢(たせん)善(よ)く賈(あきな)う  
鄙諺曰，長袖善舞，多錢善賈。此言多資之易爲工也。

韓非子・五蠹

中：長袖善舞。

- ・塵(ちり)に継ぐ  
二方承則，八慈繼塵。

後漢書・荀韓鍾陳傳贊

中：繼承先人遺業。

- ・塵(ちり)に同ず  
和其光，同其塵。

老子・第四章

中：和光同塵。

- ・塵を望んで拝す  
岳性輕躁，趨勢利，與石崇等諂事賈謐，每候其出，與崇輒望塵而拜。  
晉書・潘岳傳

與潘岳諂事賈謐，廣城君每出，崇降車路左，望塵而拜。  
晉書・石崇傳

中：望塵而拜。

- ・月満つれば則ち虧(か)く  
語曰，日中則移，月満則虧。

史記・蔡澤傳

中：月満則虧。月盈則食。

- ・月の桂(かつら)を折る  
武帝於東堂會送，問謐曰，卿自以爲何如。謐對曰，臣舉賢良對策，爲天下第一，猶桂林之一枝，崑山之片玉。

晉書・郗謐傳

中：折桂。科舉及第。

- ・即(つ)かず離(はな)れず  
不即不離，無縛無脫。

圓覺經・卷上

中：若即若离，不即不离。

- 鶴(つる)九臯(きゅうこう)に鳴き声天に聞こゆ  
鶴鳴於九臯，聲聞於野。

詩經・小雅・鶴鳴

中：鶴鳴九臯。

- 鶴(つる)は千年亀は万年。  
而世弗灼，必問吉凶於龜者，以其歷歲久矣。  
鶴壽千歲，以極其游。蜉蝣朝生而暮死，而盡其樂。

淮南子・說林訓

借問蜉蝣輩，寧知龜鶴年。

李善注：養生要論曰，龜鶴壽有千百之數，性壽之物也。

文選・郭璞・遊仙詩

中：龜鶴遐齡。

- 手に汗を握る  
憲宗即位，召璧問曰，天下如何而治。對曰，請先誅近侍之尤不善者。憲宗不悅。璧退，世祖曰，秀才，汝渾身都是膽耶？吾亦爲汝握兩手汗也。

元史・趙璧傳

中：捏一把汗。提心吊胆。

- 手の舞い足の踏む所を知らず。  
情動於中而形於言。言之不足，故嗟歎之。嗟歎之不足，故永歌之。永歌之不足，不知手之舞之，足之蹈之也。

詩經大序

中：(1)(あまりのうれしさに有頂天になっているさまという意味から)手舞足蹈。

(2)(あわてふためくさまという意味から)手足无措。手忙脚乱。

- 手を反(かえ)す

以齊王，由反手也。

孟子・公孫丑上

中：易如反掌。

・手を下(くだ)す

今日繼母無狀，手殺其父，則下手之日，母恩絶矣。

漢武故事

中：下手。动手。着手。

・手を拱(こまぬ)く(手をこまねくとも)

(1)遭先生於道，趨而進，正立拱手。

禮記・曲禮上

中：(中国の敬礼の一つという意味から)拱手。

(2)於是秦人拱手而取西河之外。

賈誼・過秦論上

中：(何もしないでいるという意味から)袖手旁觀。

・手を東(つか)ねる

父子老弱係脰束手爲群虜者相及於路。

史記・春申君傳

中：束手旁觀。束手就擒。

・手を翻(ひるがえ)せば雲となり手を覆(くつがえ)せば雨となる。

翻手作雲覆手雨，紛紛輕薄何須數。

杜甫・貧交行

中：翻云覆雨。

・泥(でい)の如し

肯籍荒庭春草色，先拚一飲醉如泥。

杜甫・將赴成都草堂途中有作先寄嚴鄭公其三

一歲三百六十日，三百五十九日齋。

唐・李賢

注：漢官儀此下云：一日不齋醉如泥。

後漢詩・儒林傳下・周澤

中：烂醉如泥。

◦ 鼎俎(ていそ)に免(まぬか)れず  
鷄知將旦，鶴知夜半，而不免於鼎俎。

淮南子・說山訓

中：难免一死。

◦ 鄭白(ていはく)の衣食(いしょく)に飽(あ)く  
下有鄭白之沃，衣食之源。

班固・西都賦

中：丰衣足食。

◦ 敵国(てきこく)外患(がいがん)無き者は国恒(つね)に亡(ほろ)ぶ  
入則無法家拂土，出則無敵國外患者，國恆亡。

孟子・告子下

中：无敌国外患者，国恆亡。

◦ 哲夫(てっふ)城を成(な)して哲婦城を傾(かたむ)く  
哲夫成城，哲婦傾城。懿厥哲婦，爲臯爲鶻。

詩經・大雅・瞻卬

中：哲夫成城，哲婦傾城。

◦ 轍鮒(てっふ)の急

莊周家貧，故往貸粟於監河侯。監河侯曰，諾。我將得邑金，將貸子三百全，可乎。莊周忿然作色曰，周昨來，有中道而呼者。周顧視車轍中，有鮒魚焉。周問之曰，鮒魚來，子何爲者邪。對曰，我，東波之波臣也。君豈有斗升之水而活我哉。周曰，諾。我且南遊吳越之王，激西江之水而迎子，可乎。鮒魚忿然作色曰，吾失我常與，我無所處。吾得斗升之水然活耳，君乃言此，曾不如早索我於枯魚之肆。

莊子・外物

**中**：涸轍之鮒。轍鮒之急。

- 天(てん)之(これ)に年(とし)を假(か)す  
晉侯在外十九年矣，而果得晉國。險阻艱難，備嘗之矣。民之情僞，盡知之矣。天假之年，而除其害。天之所置，其可廢乎。

左傳・僖公二八年

**中**：天假之年。天假以年。

注：現代中国語としては“天不假年”（長生きできない）の形で使われることが多い。

- 天定まって亦(また)能(よ)く人に勝つ  
人衆者勝天，天定亦能破人。

史記・伍子胥傳

**中**：天定亦能破人。

- 天知る，地知る，我知る，人知る  
至夜懷金十斤以遺震。震曰，故人知君，君不知故人何也。密曰，暮夜無知者。震曰，天知神知，我知子知。何謂無知。密愧而出。

後漢書・楊震傳

**中**：天知地知，你知我知。

- 天にあらば翼(ひよく)の鳥，地にあらば連理(れんり)の枝  
在天願作比翼鳥，在地願爲連理枝。

白居易・長恨歌

**中**：在天愿作比翼鳥，在地愿爲連理枝。

- 天に順(したが)う者は存(そん)し天に逆(さから)う者は亡(ほろ)ぶ  
須天者存，逆天者亡。

孟子・離婁上

**中**：順天者存，逆天者亡。

- 天に踟(せくぐま)り地に躡(ぬきあし)す

謂天蓋高，不敢不局。謂地蓋厚，不敢不踣。

詩經・小雅・正月

中：局天踣地。战战兢兢，僣促不安。

・天に二日(にじつ)無し，土(ど)に二王無し

孔子曰，天無二日，土無二王。

禮記・曾子問

中：天无二日，土无二王。

・天の与えるを取らざれば反(かえ)って其の咎(とが)めを受く  
蓋聞，天與弗取，反受其咎。時至不行，反受其殃。願足下孰慮之。

史記・淮陰侯傳

中：天与弗取，反受其咎。

・天の時(とき)は地の利(り)に如(し)かず，地の利(り)は人の和(わ)に如(し)かず。

天時不如地利，地利不如人和。

孟子・公孫丑下

中：天时不如地利，地利不如人和。

・天の作(な)せる孽(わざわい)は猶(なお)違(さ)くべし，自ら作せる孽(わざわい)は  
違(さ)の(が)るべからず

天作孽猶可違，自作孽不可逭。

書經・太甲

中：天作孽犹可违，自作孽不可逭。

・天の美祿(びろく)

酒者，天之美祿，帝王所以頤養天下，享祀祠福，扶衰養疾。

漢書・食貨志下

中：酒。杯中物。黄汤。杜康。

・天は高き(たか)にいて卑(ひく)きに聽(き)く

子韋曰，天高聽卑。君有君人之言三，災惑宜有動。

史記・宋微子世家

中：天高听卑。

- 天を仰(あお)いて唾(つばき)する  
悪人害賢者，猶仰天而唾，唾不汚天，還汚己身。

四十二章經

中：仰天而唾。作法自斃。害人反害己。搬起石头打自己的脚。

- 天を怨(うら)みず人を尤(とが)めず  
不怨天不尤人，下學而上達，知我者其天乎。

論語・憲問

中：不怨天不尤人。

- 天を衝(つ)く  
偶有衝天氣，都無處世才。  
未容榮路穩，先踏禍機開。

元稹・酬盧秘書詩

中：冲天。

- 天下の憂(うれ)いに先立ちて憂い，天下の楽しみに後(おく)れて楽しむ。  
不以物喜，不以己悲。居廟堂之高，則憂其民。處江湖之遠，則憂其君。  
是進亦憂，退亦憂，然則何時而樂耶。其必曰，先天下之憂而憂，後天下  
之樂而樂歟。

范仲淹・岳陽樓記

中：先天下之忧而忧，后天下之乐而乐。

- 天下は一人(いちにん)の天下にあらず，乃(すなわ)ち天下の天下なり  
大公曰，天下非一人之天下，乃天下之天下也。

六韜・文師

中：天下非一人之天下，乃天下之天下也。

- 天機(てんき)を洩(も)らす

無限天機一時漏出。

宋・釋惟白・續傳燈錄第二十一卷  
稚子問翁新悟處，欲言直恐泄天機。

陸游・醉中草書田戲作此詩

中：泄露天機。泄漏天機。

◦天馬(てんば)空(くう)を行く

其所以神化而超出於衆表者，殆猶天馬行空而步驟不凡。

明・劉子鐘・薩天錫詩集序

中：天馬行空。

◦天網(てんもう)恢恢(かいかい)疎(そ)にして漏(も)らさず。

天網恢恢，疏而不失。

老子・第七十三章

又曰，天網恢恢，疏而不漏。是故欲求治本，莫若省事清心。

北齊・魏收・魏書・任城王傳

中：天網恢恢，疏而不漏。

◦砥(と)の如(ごと)し

周道如砥，其直如矢。

詩經・小雅・大東

中：道路平坦。

◦堵(と)に安(やす)んずる。

即墨即降，願無虜掠吾族家妻妾，令安堵。

史記・田單傳

百姓安堵・軍無私焉。

蜀志・諸葛亮傳

中：(1)(人民が住居に安心して住むという意味から)安居。安堵。

(2)(安心するという意味から)放心。

注：中国語の“安堵”には安心するという意味はない。

262

◦ 堵(と)の如(ごと)し

向建鄴京師人士，聞其恣容觀者如堵。

晉書・衛玠傳

中：圍觀者众多。

◦ 度が過ぎる

有君而爲之貳，使師保之，勿使過度。

左傳・襄公十四年

中：過度。

◦ 度を失う

卒起不意，盡失其度。

戰國策・燕策・王喜

中：一失常態。方寸大乱。

◦ 灯(とう)滅(めつ)せんとして光(ひかり)を増す

吾法滅時譬如油燈，臨欲滅時光明更盛。

佛說法滅盡經

中：回光返照。

◦ 当を失する

翰林學士知貢舉李昉，坐試人失當，責授太常少卿。

宋史・太祖紀三

中：失当。

◦ 湯(とう)の盤銘(ばんめい)

湯之盤銘曰，苟日新，日日新，又日新。

禮記・大學

中：湯盥(喻自警)。

◦ 堂(どう)に入(い)る

門人不敬子路。子曰，由也升堂矣，未入於室也。

論語・先進

中：升堂入室。登堂入室。登峰造極。

- 堂に升(のぼ)り室(しつ)に入らず  
門人不敬子路。子曰，由也升堂矣，未入於室也。

論語・先進

中：(喻技艺)已升堂，但未入堂。

- 燈火(とうか)親(した)しむべし  
燈火稍可親，簡編可卷舒。

韓愈・符讀書城南詩

中：(秋は涼しく夜長なので，灯火の下で書物を読むに適しているという  
意味から)

秋天夜长，气候清爽，适宜读书学习。

- 頭角(とうかく)を現(あらわ)す  
雖年少，已自成人，能取進士第，嶄然見頭角，衆謂柳氏有子矣。

韓愈・柳子厚墓誌銘

中：嶄露头角。显露头角。

- 同気(どうき)相(あい)求める  
同聲相應，同氣相求。

易・乾

中：同气相求。

- 東西南北の人  
孔子既得合葬於防，曰，吾聞之，古也墓而不墳。今丘也，東西南北之  
人也，不可以弗識也。

禮記・檀弓上

中：东西南北人。居无定处的人。

- 東西(とうざい)を弁(べん)せず  
纔知恩愛迎三歲，未辨東西過一生。

白居易・重傷小女子詩

中：(1) (西も東もわからないという意味から) 不辨東西。  
(2) (物事を判断する能力が全くないという意味から) 不懂事理。

・同日(どうじつ)の論(ろん)ではない  
比權量力，效功於當世，不同日論矣。  
史記・游侠傳

中：不可同日而語。

・陶朱(とうしゅ)猗頓(いとん)の富  
材能不及中脰，非有仲尼墨翟之賢，陶朱猗頓之富。  
賈誼・過秦論上

中：陶朱猗頓之富。

・同舟(どうしゅ)相(あい)救う  
夫吳人與越人相惡也。當其同舟而濟，遇風，其相救也，如左右手。  
孫子・九地

中：同舟共濟。

・頭足(とうそく)所(ところ)を異(こと)にす  
頭足異處，子孫無遺類。  
史記・淮南王安傳  
漢王借兵而東下，殺成安君泜水之南，頭足異處，卒爲天下笑。  
史記・淮陰侯傳

中：头足异处。

・東道(とうどう)の主(しゅ)  
若舍鄭以爲東道主，行李之往來，共其乏困，君亦無所害。  
左傳・僖公三十年

中：东道主

・堂堂(とうとう)の陣(じん)  
無邀正正之旗，勿擊堂堂之陣，此治變者也。  
孫子・軍爭

中：堂堂之陣。

- 同病(どうびょう)相憐(あわれ)む  
子胥曰、吾之怨與喜同、子不聞河上歌乎、同病相憐、同憂相救。  
吳越春秋・闔閭内傳

中：同病相怜。

- 桃李(とうり)もの言わざれども下(した)自(おのずか)ら蹊(みち)を成す。  
余睹李將軍悛悛如鄙人、口不能道辭。及死之日、天下知與不知、皆爲盡哀。彼其忠實心誠信於士大夫也。諺曰、桃李不言、下自成蹊。此言雖小、可以論大也。  
史記・李將軍列傳論

中：桃李不言，下自成蹊。

- 桃李(とうり)門に満つ  
或謂仁傑曰、天下桃李、悉在公門矣。  
資治通鑑・唐紀・則天武后久視元年

中：桃李满天下。

- 螻螂(とうろう)が斧(おの)を取りて隆車(りゅうしゃ)に向かう  
欲以螻螂之斧禦隆車之隧。  
陳琳・爲袁紹檄豫州

中：螻螂当车。

- 螻螂(とうろう)の斧(おの)  
→ “螻螂(とうろう)が斧(おの)を取りて隆車(りゅうしゃ)に向かう”  
に同じ。
- 遠き慮(おもんばか)りなければ必ず近き憂えあり  
人無遠慮、必有近憂。

論語・衛靈公

中：人无远虑，必有近忧。

・遠きに交わりて近きを攻む

王不如遠交而近攻，得寸則王之寸，得尺亦王之尺也。今舍此而遠攻，不此繆乎。

戰國策・秦策三

中：遠交近攻。

・遠きに行くは必ず邇(ちか)きよりす

君子之道，辟如行遠，必自邇。辟如登高，必自卑。

禮記・中庸

中：行遠自邇。循序漸進。

・遠くの親類より近くの他人

豈不聞遠親呵不似我近鄰，我怎敢做的個有口偏無信。

元・秦簡夫・東堂老・第四折

中：遠親不如近鄰

・時移り事(こと)去る

自南宮遷於西內，時移事去，樂盡悲來。

唐・陳鴻・長恨歌傳

中：時移事去

・時は得難くして失い易し

(1) 夫功者，難成而易敗。時者，難得而易失也。時乎時不再來。

史記・淮陰侯傳

中：時(机会)難得而易失。

(2) 聖人不貴尺之璧而重寸之陰，時難得而易失也。

淮南子

中：時者難得而易失。時不我與。時不我待。

・徳(とく)は孤(こ)ならず必ず隣(となり)あり

子曰，徳不孤，必有鄰。

論語・里仁

中：徳不孤，必有鄰。

◦ 徳(とく)をもって怨(うら)みに報(むく)ゆ  
或曰、以德報怨、何如。子曰、何以報德。以直報怨、以德報德。  
論語・憲問

大小多少、報怨以德。

老子・六十三章

中：以德報怨。

◦ 読書(どくしょ)甚解(じんかい)を求めず  
好讀書、不求甚解、每有會意、便欣然忘食。  
陶潛・五柳先生傳

中：读书不求甚解。

◦ 読書百遍義自(おのずか)ら見(あらわ)る  
人有從學者、遇不肯教而云、必當先讀百遍、言讀書百遍而義自見。  
魏志・王肅

中：读书百遍又自見。

◦ 歳寒くして松柏(しょうはく)の凋(しぼ)むに後(おく)るるを知る  
子曰、歳寒、然後知松柏之後彫也。  
論語・子罕

中：岁寒、然后知松柏之凋也。松柏后凋。

◦ 歳守(まも)る  
守歳家家應未卧、想思那得夢魂來。  
孟浩然・歲除夜有懷詩

中：守岁。

◦ 咄咄人に逼(せま)る  
殷曰、咄咄逼人。仲堪眇目故也。  
世說新語・排調

衛有一弟子王逸之(王羲之)、甚能學衛眞書、咄咄逼人。筆勢洞精、字體適媚。

晉・衛鑠・與釋某書

中：(詩文や書画などの技芸がたいそう優れているのに驚嘆してほめる語という意味から) 喻詩文、书画技艺赶上或超越前人，令人赞叹。

注：古文においては日本語と同じ意味でしたが，現代中国語の“咄咄逼人”はすごいけんまくで人をたじろがせる意味です。

・怒髮(どはつ)冠(かんむり)(=天)を衝(つ)く  
相如因持壁却立，倚柱，怒髮上衝冠。  
史記・蔣相如傳

中：怒发冲冠。

・富(とみ)は屋(おく)を潤(うるお)し徳(とく)は身(み)を潤す  
富潤屋，徳潤身，心廣體胖。  
大學

中：富润屋，徳润身。

・ともしび消えんとして光を増(ま)す  
吾法滅時，譬如油燈臨欲滅時光明更盛。  
法滅盡經

中：回光返照。

・共に天を戴(いただ)かず  
父之讐，弗與共戴天。  
禮記・曲禮上

中：不共戴天。

・虎(とら)に翼(つばさ)  
周書曰，毋爲虎傅翼將飛入邑，擇人食之。  
韓非子・難勢

中：如虎添翼。

・虎(とら)の威を借る狐(きつね)

虎求百獸而貪食之，得狐。狐曰，子無敢食我也。天帝使我長百獸，今子食我，是逆天帝命也。子以我爲不信，吾爲子先行，子隨我後，觀百獸之見我而敢不走乎。虎以爲然，故遂與之行，獸見之皆走。虎不知獸畏己而走也，以爲畏狐也。

戰國策・楚策一

中：狐假虎威。

・虎の尾を踏む

履虎尾，不咥人，亨。

易・履

中：履虎尾。

・虎は死して皮を(とど)め，人は死して名を残す

公本武人，不知書，其語質，平生嘗謂人曰，豹死留皮，人死留名。蓋其義勇忠信出於天性而然。

歐陽修・王彥章畫像記

中：豹死留皮，人死留名。

・虎(とら)を画(えが)きて狗(いぬ)に類す

效季良不得，陷爲天下輕薄子，所謂畫虎不成反類狗也。

後漢書・馬援傳

中：画虎不成反类狗。画虎不成反类犬。画虎类狗。

・虎(とら)を養(やしな)いて患(うれい)を遺(のこ)す

漢欲西歸，張良、陳平說曰，漢有天下太半，而諸侯皆附之。楚兵罷食盡，此天亡楚之時也，不如因其機而遂取之。今釋弗擊，此所謂養虎自遺患也。漢王聽之。

史記・項羽本紀

中：养虎自遺患。养虎留患。养虎貽患。

・吞舟(どんしゅ)の魚(うお)

吞舟之魚，碭而失水，則蟻能苦之。

莊子・庚桑楚

中：吞舟之魚。吞舟。

- 吞舟(どんしゆ)の魚(うお)は枝流(しりゅう)に游(およ)がず  
吞舟之魚，不游枝流。鴻鵠高飛，不集汗池。

列子・楊朱

中：吞舟之魚，不游枝流。

- 名有りて実(じつ)なし  
叔向見韓宣子，宣子憂貧，叔向賀之。宣子曰，吾有卿之名，而無其實。無以從二三子，吾是以憂，子賀我何故。

國語・晉語八

中：有名无実。

- 名は実(じつ)の賓(ひん)  
許由曰，子治天下，天下既已治也。而我猶代子，吾將爲名乎。名者實之賓也。吾將爲賓乎。

莊子・逍遙遊

中：名者实之賓。

- 名を正(ただ)す  
子曰，必也正名乎。

論語・子路

中：(1)(名分を正すという意味から)正名。  
(2)(正邪を判断するという意味から)判断正邪。

- 名を竹帛(ちくはく)に垂(た)る  
但願明公威德加於四海，禹得效其尺寸，垂功名於竹帛耳。

後漢書・鄧禹傳

中：名垂千古。名垂青史。

- 名を成(な)す

善不積，不足以成名。

易經・繫辭下

達巷黨人曰，大哉孔子，博學而無所成名。

論語・子罕。

中：成名。

◦ 名を馳(は)せる

文公遂以占術馳名。

後漢書・方術傳・任文公

中：馳名。

◦ 流れに耳を洗う

→ 潁水(えいすい)に耳を洗う

◦ 泣いて馬謖(ばしょく)を斬(き)る

魏明帝西鎮長安，命張郃拒亮。亮使馬謖督諸軍前，與郃戰于街亭。謖違亮節度，舉動失宜。大爲郃所破。亮拔西縣千餘家，還于漢中。戮謖以謝衆。

三國志・蜀志・諸葛亮

中：孔明揮泪斬馬謖。

◦ 鳴かず飛ばず

淳于髡説之以隱，曰，國中有大鳥，止王之庭，三年不蜚又不鳴，王知此鳥何也。

史記・滑稽列傳

中：毫无作为。

◦ 胎(なます)を吹(ふ)く

→ 糞(あつもの)に懲(こ)りて胎(なます)を吹(ふ)く

◦ 習い性(せい)と成る

茲乃不義，習與性成。

尚書・太甲上

中：习与性成。

- ・難(なん)に臨(のぞ)んで遽(にわか)に兵(へい)を鑄(い)る  
溺者不問隊，迷者不問路。溺而後問隊，迷而後問路，譬之猶臨難而遽鑄兵，  
臨噎而遽掘井，雖速，亦無及已。

晏子春秋・雜上二十

中：臨渴掘井。臨陣磨槍。臨難鑄兵。

- ・難中(なんちゅう)の難  
若聞此經信樂受持，難中難無過此難。

無量壽經・下

中：難而又難。

- ・南風(なんふう)競(きそ)わず  
晉人聞有楚師，師曠曰，不害，吾驟歌北風，又歌南風，南風不競，多死聲，  
楚必無功。

左傳・襄公十八年

中：(南方の国の勢力が振わないという意味から)南方の勢力一蹶不振。

注：現代中国語の“南風不競”は実力がないために、競争に負けるという意味です。

- ・錦(にしき)を着て夜行くが如し  
富貴不歸故郷，如衣錦夜行。

漢書・項羽傳

中：衣錦夜行。衣綉夜行。

- ・二鼠(にそ)藤(ふじ)を嚙(か)む  
昔有一人避二醉象(生死)，緣藤(命根)入井(無常)。有黑白二鼠(日月)嚙藤  
將斷，旁有四蛇(四大)欲螫，下有三龍(三毒)吐火，張爪拒之。其人仰望二  
象已臨井上，憂惱無托。忽有蜂過遺蜜滴入口(五欲)，是人啜蜜，全亡危懼。

“翻譯名義集・增數譬喩”引“大集經”

中：二鼠啮藤(喻活着的人不斷走向死亡)。

・二桃(にとう)三士(さんし)を殺す

公孫接田開疆古冶子事景公，以勇力搏虎聞。晏子過而趨，三子者不起。〈略〉因請諸公使人少餽之二桃，曰，三子何不計功而食桃。〈略〉皆反其桃，挈領而死。古冶子曰，二子死之，治獨生之，不仁。恥人以言，而夸其聲，不義。恨乎所行，不死無勇。雖然，二子同桃而節，治專其桃而宜，亦反其桃，挈領而死。

晏子春秋・諫下二

中：二桃杀三士。(喻施用阴谋杀人。)

・似て非なり

孔子曰，惡似而非者，惡莠，恐其亂苗也。惡佞，恐其亂義也。

孟子・盡心下

(莊)周將處夫材與不材之間，似之而非也。

莊子・山木

中：似是而非。

・鶏(にわとり)を割(さ)くにいづくんぞ牛刀を用いん

子之武城，聞弦歌之聲。夫子莞爾而笑，曰，割鶏焉用牛刀。子游對曰，昔者偃也聞諸夫子曰，君子學道則愛人，小人學道則易使也。

論語・陽貨

中：割鸡焉用牛刀。杀鸡焉用牛刀。

・任(にん)重くして道遠し

曾子曰，士不可以不弘毅，任重而道遠。仁以爲己任，不亦重乎。死而後已，不亦遠乎。

論語・泰伯

中：任重道远。

・佞言(ねいげん)は忠(ちゅう)に似(に)たり

佞言似忠，姦言似信。

宋史・李沆傳

中：佞言似忠。

◦ 年年(ねんねん) 歳歳(さいさい) 花(はな) 相似(あい)にたり  
→ 歳歳年年人同じからず

◦ 能事(のうじ) 終われり  
引而伸之，觸類而長之，天下之能事畢矣。  
易經・繫辭上

中：能事畢矣。能做的事已做完。

◦ 能書(のうしょ) 筆を択(えら)ばず。  
能書不擇筆，此浪語也。  
明・王肯堂・郁岡齋筆塵・卷四  
太白可謂能書不撰筆矣。  
丹鉛總錄

中：能書不擇筆。

◦ 囊中(のうちゅう)の錐(きり)  
夫賢士之處世也，譬若錐之處囊中，其末立見。  
史記・平原君傳

中：囊里盛錐。囊錐露穎。